

① 学習指導案

| | |
|----------------|--|
| プログラム | No. 5 「 地域カルタをつくろう 」 |
| 単元名 (全12時間) | 山下のすきなところをカルタをつくって、これから入学してくるみんなに伝えよう |
| 学習のねらい | 自分たちの暮らすまちの特徴やよさに気付き、地域への愛着心を育てるとともに、身近な人たちに伝える関心を高める。 |
| 学習内容 | 1 地域のよさや特徴を考える。 2 まちに出て、すきなところを確かめながら、新たな発見をする。 3 地域カルタをつくる。 4 カルタ遊びを通してまちのすきなところを伝える |
| 参考資料 | 学区地図、参考となるカルタ |
| 準備品 | タブレット |
| 実施場所等 | 教室、学区域など |

学習の流れ

| 時間 | 学習活動 | 教師の指導 | 評価 |
|----|-------------------------------------|--|---------------------------------|
| 1 | 山下のすきなところを伝え合う。 | ○好きなところだけでなく、まちの歴史にも着目し活動できるように動機づけをする。 | ☆話し合いを通しまちへの関心を高めている。 |
| 2 | 学習計画を立てる。 | ○ペア学年で協力してカルタづくりを行うことを確認する。 | ☆今後の活動の見通しをもっている。 |
| 3 | まち探検に出かけて、すきなところや歴史的な景観を確認する。 | ○これまでまち探検等で発見したことを思い出し、新たに発見できることを確認する。 ○公衆マナーを守るように指導する。 | ☆まちのすきなところを見つけることができる。 |
| 4 | | | |
| 5 | | | |
| 6 | ペア学年で、まちの好きなところや歴史的な景観を出し合い読み札をつくる。 | ○まちの景観の特徴やよさを確認して、それぞれの立場から内容が分かる読み札になるようにする。 | ☆まちのすきなところ等を読む札で表すことができる。 |
| 7 | | | |
| 8 | | | |
| 9 | 読み札に合う絵札をつくる。 | ○ペアで考えた読む札に合うように絵札をつくる。 | ☆読み札をもとに絵札をつくることができる。 |
| 10 | | | |
| 11 | | | |
| 12 | カルタ遊びを通して、まちのすきなところを伝える。 | ○カルタ遊びを通して、自分たちのまちのよさや歴史について理解を深められるようにする。 | ☆カルタ遊びを通して、まちのすきなところを考えることができる。 |



<留意点>

- 地域に出かけるときには、公衆マナーに気を付けるように事前指導する。
- ペア学年で行うことで、学校全体に活動を広げ、150周年への思いを高めていけるようにする。
- 写真に記録する際には、情報モラルに気を付けるように事前指導する。
- 今年度だけの活動にならずに、来年度以降にもつながるように、子どもたちの思いをつなげる。

② 事業実施報告書詳細

学校名 横浜市立山下小学校

| 時間数 | 場所 | 概要 | 活動記録(写真) | 対象者の反応 |
|-----|----|--------------------|--|---|
| 2 | 教室 | 山下のまちのよいところを伝え合おう。 |  | <ul style="list-style-type: none"> ・改めてまちのよさを伝え合ったことで、自分たちのまちについてじっくり考えるきっかけとなった。 ・地域で行われた、「山下学舎文化祭」にカルタを出品したことをきっかけに、他の文字についても考えてみたいという気持ちが高まった。 |
| 2 | 地域 | まちのよさを見付けよう。 |  | <ul style="list-style-type: none"> ・公園をきれいにしてくれる愛護会の方の存在に気付く話聞くことができたことで、まちのために自分たちにできることを考えるきっかけをつくることができた。 |

| | | | | |
|---|----|--|---|---|
| 3 | 教室 | ペア学年と相談して山下のまちのすてきなところを「5・7・5」のリズムに合わせて読み札をつくろう。 |  | <ul style="list-style-type: none"> ・ペア学年で読み札を考えたことにより、多面的に地域のよさを考えられた。 ・読み札の内容が重ならないように高学年を中心に調整を行い、実際に遊ぶことを想像しながら活動を進めることができた。 |
| 3 | 教室 | ペア学年と相談して読み札に合う絵札をつくろう。 |  | <ul style="list-style-type: none"> ・次年度以降も遊ぶことができるように、高学年中心に、丁寧に絵札をつくろうとする姿が見られた。 ・ペア学年で活動を行ったことで、どの学年の児童も分かるような絵にしようとする姿が見られた。 |
| 2 | 教室 | 出来上がったカルタで遊ぼう。 | ○コロナウイルス感染予防の観点から、密を避けるため、実施できず。 | <ul style="list-style-type: none"> ・出来上がったカルタを使ってペア学年や地域の方々と遊びたいという気持ちが強かったが、掲示するにとどまった。 |

③ 実施内容について

(1) 実施にあたり工夫した点

令和4年度に150周年を迎えるにあたって、地域や学校について改めて考える機会を創立記念式等でもつことができた。そのため、子どもたちも地域や学校に目を向けて活動することができたように感じる。地域で行われている「山下学舎文化祭」にそれぞれの学年で作品を出品したこともきっかけとなった。掲示のみの巨大カルタをつくるのではなく、実際に

遊べる通常サイズのカルタをつくることで、今年度のみ活動ではなく、来年度以降も遊びながら地域や学校のことを伝えられるように活動を進めていった。

また、ペア学年で活動を進めていったことで、自分たちだけでなくどの学年の子たちにも伝わる内容のカルタにしようとする姿が見られた。

(2) 実施にあたり苦労した点

コロナウイルス感染予防の観点から、地域の方と関わることや異学年交流に制限があり、思ったように活動を進めることができなかった。本来であれば、ペア学年で一緒にまちに探検へ行き、カルタに残したい事柄を見付けたり読み札や絵札をなかよしグループで作ったりしたかったが、実際には、クラスごとの活動となってしまった。読み札や絵札の調整はクラスが交われなかったのでオンラインで行い、学年ごとに読み札と絵札の担当を分け活動を進めていった。担任が間に入り、確認を密に行いながらカルタ作りあげることに苦労した。

(3) 児童の反応

自分たちが考えたカルタが掲示されたり実施に遊べるサイズのカルタとして出来上がったのを見て、とてもうれしそうにしていた。また、地域のことをカルタの題材としたので、地域の人にも使ってほしいという思いが子どもたちから自然と出てきた。

(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化

150周年という節目の年の記念にとカルタづくりを始めたが、大人が感じている以上に子どもたちはよく地域や学校のことを見て、よさを知っているなど感じた。子どもたちから教わったことも多く、カルタづくりを通して、教師側が新たな発見をしたこともたくさんあった。全校で取り組んだことにより、赴任して間もない先生たちも地域のことを知るきっかけとなった。

(5) 今後の課題と取り組み〔児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等〕

コロナウイルス感染予防の観点から、出来上がったカルタで子どもたちはまだ遊ぶことができていない。早く遊びたい、という気持ちが強いので、感染予防を行いながらできるだけ早い段階で実施に遊ぶ機会を設けたいと考えている。また、助成金のおかげで各クラスに3種類のカルタを配付することができたので、今年度のみ活動ではなく、来年度以降入学してくる児童にも地域や学校のことを知ってもらうきっかけとなれるようにしていきたい。子どもたちが作った原本はPDFでデータ保存してあるため、クラスが増えたりたくさん遊んだことで破損したりした場合も作り直すことができるようになっている。今後の子どもたちの思い次第で地域などに配ることもできると感じている。